



ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報

No.34

発行日 2024年9月1日
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

目次

巻頭言

「楽しい同窓会」への取り組み
佐賀大学農学部同窓会 会長 鐘ヶ江直雅 … 1

第39回(令和6年度)農学部同窓会総会

同窓会(5月18日)の思い出 … 2

令和5年度事業報告および収支決算 … 4

令和6年度事業計画および収支予算 … 4

令和6年度の新役員 … 5

ホームカミングデー

同窓会表彰 … 5

同窓会長賞受賞によせて

石崎 美里 … 5

大島 弥澄 … 6

中尾 梨菜 … 6

西村 知花 … 6

若手OB・OGからのメッセージ

川邑菜々美 … 7

藤田 将平 … 8

会員の広場

佐賀大学農学部卒業生等の植物病理学分野
における活躍状況と社会貢献について

佐古 宣道 … 9

山菜の栽培法と食べ方講座 ③ウド(独活)

田中 欽二 … 12

支部だより

佐賀県庁支部 南 隆徳 … 12

佐賀県教職員支部 松尾 信寿 … 13

農業自営者の会支部 末次 博幸 … 13

佐賀県支部 溝口 善紀 … 13

神埼支部 松尾 孝則 … 14

同窓会からのお知らせ

協賛広告 … 15

巻頭言



「楽しい同窓会」への取り組み

佐賀大学農学部同窓会 会長 鐘ヶ江 直 雅
(S56卒 農化・生化)

こんにちは。

令和6(2024)年5月18日(土)に開催された農学部同窓会総会において会長を仰せつかりました鐘ヶ江と申します。昭和56年農芸化学科卒で、農協連支部の出身です。ほとんどの方が初めましてかと思いますが、お見知りおきのほど、よろしく願いいたします。

このところ、佐賀大学同窓会は理工学部同窓会の全学同窓会からの離脱問題に関連して少しピリピリしておりました。しかし、やはり「同窓会活動は楽しくなければならぬ」という考えのもとに、今回選任いただいた役員29人で力を合わせ、引き続き会員相互の親睦融和と学生への支援に取り組んでまいります。

このため、皆様にも是非ご協力を賜り、各支部での同窓会活動やそれぞれで開催されている同窓会の様子など楽しいことの共有をしていきたいと思っています。会員の皆様からいろいろな同窓会の写真や学生時代の思い出などのほか、それぞれの現状のご報告等をぜひ「佐賀大学農学部同窓会 Facebook」に投稿いただければ、とてもありがたいです。

あわせて、佐賀大学農学部同窓会ホームページにもいろいろな情報を提供していきたいと思っています。

また、同窓会活動の目玉として、「佐賀大学同窓会フェス」に取り組みます。これは昨年、経済学部同窓会の呼びかけで始まった会員相互の親睦と学生支援を目的

としたイベントです。今年度からは各学部同窓会で構成する実行委員会で取り組むことになりました。今年度は11月9日(土)に佐賀駅前交流広場で開催します。同窓会会員や現役学生によるいろいろな催しや出店など、皆様にもぎっとお楽しみいただけることと思います。ぜひお誘いあわせの上お出掛けください。詳細が決まりましたら、Facebookやホームページでお知らせいたします。

さて、私自身のことを振り返りますと、卒業以来大学からは随分と足が遠のいておりましたが、一昨年から農学部同窓会の副会長を務めさせていただきました。そのなかで、改めて現在の佐賀大学の素晴らしい研究成果や地域の大学としての取り組み姿勢などを知ることができました。今では母校をたいへん誇らしく思っております。また、以前とは違う学内の新たな施設や風景を目の当たりにして、すっかり佐賀大学ファンになりました。

皆様も学年の同窓会などを開催される折には、大学内の散策や施設見学などをされてみてはいかがでしょうか。農学部同窓会にご一報いただければ、ご案内させていただきますことのできるのではないかと思います。

これから2年間、皆様方のご意見等も伺いながら会の運営を行ってまいります。「楽しい同窓会」への取り組みに、ご協力と参加をよろしくお願いいたします。

同窓会(5月18日)の思い出





第39回（令和6年度）農学部同窓会総会について

5月18日（土）に会員が一堂に会する形での総会を開催することができました。当日の出席者は48名（+委任状247名）で、総会後にはアグリ・クリエイティブ・シード株式会社代表取締役社長の諸岡 譲氏（S52卒 園芸・果樹）と佐賀大学の大島一里副学長による記念講演がありました。その後の懇親会は大盛況で、有意義な時間が流れました。県外からの帰省を兼ねてご出席いただいた会員もおられ、久しぶりの再開、そして盛り上がった歓談で皆さま楽しく過ごしていただけたものと思います。また、総会に先立ち「産業交流プラザ」を訪れ、レベルの高い最新の研究成果に触れることができました。残念ながら今回の総会を欠席された皆さまにおかれましても、今後の同窓会行事にぜひともご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、総会資料につきましては、同窓会ホームページに掲載しております（閲覧パスワード：2024Soukai39）。ぜひ、ご覧いただければと存じます。農学部同窓会会長 鐘ヶ江 直雅（S56卒 農化・生化）

令和5年度事業報告および収支決算

(R5.4.1～R6.3.31)

■事業報告

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が第5類に引き下げられたことから、会報「ありあけ」第32号、33号の発行をはじめとして、会員相互の親睦・融和を図るよう活動を進めました。

また、在学生への支援においても、これまでの農学部との意見交換会の結果を受けて、インターンシップやマルシェ活動への支援強化や海外大学との研究連携への支援制度の新設などに取り組むとともに、在学生との交流会、同窓会長賞の授与などを継続しながら、農学部同窓会の円滑な運営に努めました。

■収支決算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和5年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	397,236	397,236	0
会費	2,810,000	3,417,654	607,654
学生(新入生)	2,250,000	2,325,000	75,000
一般会員	560,000	1,092,654	532,654
雑収入	80,010	184,799	104,789
特別会計戻入	1,027,754	1,088,587	60,833
計	4,315,000	5,088,276	773,276

【支出の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和5年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
事務費	840,000	585,160	-254,840
会議費	750,000	828,547	78,547
事業費	690,000	588,661	-101,339
組織強化費	320,000	297,735	-22,265
全学同窓会負担金	1,260,000	1,302,000	42,000
特別会計への繰出金	405,000	931,500	526,500
学生入会金	45,000	46,500	1,500
学生平準化準備金	360,000	885,000	525,000
予備費	50,000	0	-50,000
計	4,315,000	4,533,603	218,603

※収入5,088,276円－支出4,533,603円＝554,673円（次年度繰越）

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和5年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	14,315,125	14,315,125	0
一般分	6,821,889	6,821,889	0
会費平準化準備金	7,493,236	7,493,236	0
入会金	45,000	46,500	1,500
会費平準化準備金	360,000	885,000	525,000
雑収入	136	125	-11
計	14,720,261	15,246,750	526,489
一般分	6,866,957	6,868,427	1,470
会費平準化準備金	7,853,304	8,378,323	525,019

【支出の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和5年度 決算(B)	比較増減 (B-A)
繰出金	1,027,754	1,089,357	61,603

※収入15,246,750円－支出1,089,357円＝14,157,393円（次年度繰越）

令和6年度事業計画および収支予算

(R6.4.1～R7.3.31)

■事業計画

今年度は卒業生相互の親睦・融和を図るとともに在学生への支援を通じて、母校佐賀大学農学部の発展に寄与する活動を行っていきます。

特に在学生への支援においては、これまでの農学部との意見交換会の結果を受けて、インターンシップやマルシェ活動への支援強化や海外大学との研究連携への支援などの取組を継続しながら、在学生にも一層身近に感じられる同窓会を目指していきます。

■収支予算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和6年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	397,236	554,673	157,437
会費	2,810,000	3,150,000	340,000
学生(新入生)	2,250,000	2,500,000	250,000
一般会員	560,000	650,000	90,000
雑収入	80,010	90,010	10,000
特別会計戻入	1,027,754	1,055,317	27,563
計	4,315,000	4,850,000	535,000

【支出の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和6年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
事務費	840,000	840,000	0
会議費	750,000	780,000	30,000
事業費	690,000	940,000	250,000
組織強化費	320,000	340,000	20,000
全学同窓会負担金	1,260,000	1,400,000	140,000
特別会計への繰出金	405,000	500,000	95,000
学生入会金	45,000	50,000	5,000
学生平準化準備金	360,000	450,000	90,000
予備費	50,000	50,000	0
計	4,315,000	4,850,000	535,000

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和6年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	14,315,125	14,157,393	-157,732
一般分	6,821,889	6,868,427	46,538
会費平準化準備金	7,493,236	8,378,323	885,087
入会金	45,000	50,000	5,000
会費平準化準備金	360,000	450,000	90,000
雑収入	264	100	-164
計	14,720,261	15,746,850	1,026,589
一般分	6,866,957	6,918,477	51,520
会費平準化準備金	7,853,304	8,828,373	975,069

【支出の部】

単位：円

科目	令和5年度 予算(A)	令和6年度 予算(B)	比較増減 (B-A)
繰出金	1,027,754	1,055,317	27,563

令和6年度農学部同窓会役員

役職	担当	氏名	卒年	学科・専攻	所属
会長	会の総括	鐘ヶ江直雅	S56卒	農化・生化	佐賀県農協連支部
	会費対策	荒木 清文	S54卒	農化・発酵	佐賀県教職員支部
副会長	会計(会報)	川路 勝	S53卒	農土・土改	佐賀県庁支部
	組織強化	郡山 益実	H7卒	生生・浅海	佐賀大学
理事長	会計(会費対策)	江口 一臣	H2卒	農学・畜産	佐賀県庁支部
理事(編集長)	会報	松永 章	S59卒	農学・畜産	佐賀県支部
	組織強化	吉賀 豊司	H2卒	園芸・応勤	佐賀大学
	学生支援	田中 宗浩	H4卒	生生・施設	
	会報	福田 伸二	H7卒	応生・植ウ	
	会費対策	宮本 英揮	H10卒	生生・水利	
	組織強化	徳本 家康	H14卒	生生・水利	
	学生支援	龍田 勝輔	H15卒	応生・害虫	
	組織強化	脇屋裕一郎	H4卒	農学・畜産	
	学生支援	井上 晶子	H6卒	生生・基盤	
	会報	川崎 美紀	H11卒	応生・蔬菜	
	組織強化	安藤 新一	H14卒	応生・遺資	
	学生支援	今江 吉則	H10卒	生生・農場	
	会費対策	福田 喜隆	S63卒	農土・土改	
	会費対策	山口 鶴美	S57卒	農土・干拓	
	会報	大坪 正幸	S59卒	農学・農経	

役職	担当	氏名	卒年	学科・専攻	所属
監事	アドバイザー(会務全般)	石橋 誠	H元卒	園芸・果樹	佐賀県教職員支部
		野中 一弥	H元卒	農化・土肥	佐賀県庁支部
佐賀県庁支部長	支部の総括	南 隆徳	S63卒	園芸・蔬菜	佐賀県庁支部
佐賀県教職員支部長	支部の総括	松尾 信寿	S63卒	園芸・果樹	佐賀県教職員支部
佐賀県農協連支部長	支部の総括	伊東 克明	H8卒	応生・畜産	佐賀県農協連支部
農業自営者の会会長	支部の総括	末次 博幸	S54卒	農学・作物	農業自営
佐賀県支部長	支部の総括	式町 秀明	S54卒	農学・畜産	佐賀県支部
神埼支部長	支部の総括	納富 敏明	S56卒	農化・食管	神埼支部
熊本県庁支部長	支部の総括	堀 孝弘	S62卒	農学・熱作	熊本県庁支部



新役員顔ぶれ

※赤字は令和6年度からの新役員

第13回佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】 令和6年10月26日(出) 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校佐賀大学を訪問していただき、母校の現状を知り、恩師・学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクションなど

※詳細は決定次第、佐賀大学校友会のホームページでお知らせします。

(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/hp/event.html>)

第12回佐賀大学ホームカミングデー(令和5年10月28日(出)開催)の様子は、こちらからご覧ください。(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/hp/hcd/12/>)

【お問い合わせ先】

佐賀大学校友会事務局

TEL: 0952-28-8390

E-mail: koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp



同窓会長賞受賞によせて

令和5(2023)年度の同窓会長賞に4名が選ばれました。佐賀大学同窓会長賞が石崎美里さん、そして、農学部同窓会長賞が大島弥澄さん、中野梨菜さん、西村知花さんに授与されました。ほんとうにおめでとうございます。今後なお一層の御活躍を期待するとともに、本学同窓会のことを気にかけていただき、お支えくださいますようお願い申し上げます。

佐賀大学同窓会長賞

生物資源科学科 食資源環境科学コース 生産地盤環境学分野

石崎 美里

この度は佐賀大学同窓会長賞という栄誉ある賞をいただきましたことを、農学部食農基礎技術マスター特別教育プログラム(特プロ)を代表して感謝申し上げます。

特プロでは、農業生産者や食品産業の方々との交流の機会をいただきながらインターンシップを経験し、暮らしにとって大事な食と農業の実際について学びました。実習では学生主体で協力し、お世話になった方々の農作物を使った商品を販売するマルシェを開催しました。活動を通じて佐賀県の食や農業の魅力と生産者のこだわりを伝えられたことを嬉しく思います。

私たちはこれからも学んだことを活かし、さらなる

農業の活性化や魅力の発信に貢献できるよう精進してまいります。この度は誠にありがとうございました。



農学部特別教育プログラムメンバーとの記念写真。(前列右端が筆者、右から3番目が大島弥澄さん、左端が中野梨菜さん)

農学部同窓会長賞

生物資源科学科 生物科学コース 線虫学分野

大 島 弥 澄

この度は佐賀大学農学部同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、たいへん光栄に思います。私は学部4年生の時に参加した第30回日本線虫学会東京大会ポスター発表において、学生優秀発表賞を受賞しました。このことが今回の受賞につながりました。



私の発表タイトルは「佐賀県上場（うわば）地域の赤土におけるサツマイモネコブセンチュウの被害抑制効果」というものです。ネコブセンチュウ（以下、ネコブ）は農業生産において作物に甚大な被害をもたらす有害な線虫として知られ、種々の対策が講じられています。サツマイモの生産ではネコブが大きな被害をもたらすことが知られています。しかし、佐賀県北西部東松浦半島に位置している上場地域のサツマイモ圃場（赤土）では被害が報告されていません。このため、上場の赤土にはネコブの被害を抑制する効果があるの

ではないかと考えました。そこで、上場の赤土によるネコブ被害抑制効果を検証するとともに、被害抑制要素を特定することを目的として研究を行いました。圃場の「無処理の赤土」と「滅菌処理した赤土」を用いて、各処理でネコブの感染実験を行った結果、無処理土の方でネコブの卵数や卵嚢数の減少が確認されました。また圃場の赤土で栽培した植物の根にはネコブの卵嚢ではない小さなコブが確認されました。これはネコブと競合関係となる生物なのではないかと考えられます。これらのことから土壤微生物が被害抑制効果につながっているのではないかと結論づけました。

初めて参加した学会発表で多くの課題が残りましたが、多くの方々が私のテーマに興味を持ってくださったこと、とても嬉しく思います。これは日々ご指導いただいた吉賀先生をはじめ研究室のメンバーのおかげであると感じています。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

令和6（2024）年4月からは大学院の修士課程へ進学し、引き続き吉賀先生のもとでネコブに関する研究を続けています。今回の受賞によって、一段と学会への挑戦意識が湧き、日々の研究に励むきっかけともなりました。この度は誠にありがとうございました。

農学部同窓会長賞

生物資源科学科 生物科学コース 施設園芸学分野

中 尾 梨 菜

この度は佐賀大学農学部同窓会長賞というたいへん名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。私は学部2年次に実施された2021年度第2回日本農業技術検定（事務局は一般社団法人全国農業会議所）において1級（野菜）に合格し、この功績を今回の受賞に際し評価いただきました。



私は熊本県立熊本農業高校出身です。このため、入学前からすでにこの検定の2級を取得しており、1級合格を在学中の目標として進学しました。しかし、新型コロナウイルスによる劇的な環境の変化や専門的な講義内容などに四苦八苦していたため取得を諦めていました。そのような時に、当時チューターで現在の指導教員である後藤文之先生から、団体受験制度が佐賀大学にあること、さらにアグリセンターの上埜先生などが中心となって合格に向けた支援を行っていることを紹介いただきました。また受講していた食農基礎技術マスター特別教育プログラム（特プロ）でも支援があると

知り、1級に挑戦しようと考えようになりました。

技術検定1級は農業一般の共通問題20問、専門科目40問の計60問から構成され、合格には約7割以上の正答が必要です。そのため専門科目に加え、農業用語や時事、簿記など幅広い知識が必要とされています。しかし、過去問は市販されておらず、対策に困っていました。すると上埜先生は快く過去問を貸してくださいました。さらに特プロを担当されている辻先生をはじめとした多くの先生方に分かりやすくご指導いただいたことで、合格することができました。合格率5.3%、4年制大学での合格者は4人という中だったため、連絡いただいた時は実感が無く、合格証書を受け取った時の嬉しさは今でも鮮明に覚えています。

こうして合格し、さらには今回の同窓会長賞を受賞できたのは、きっかけを作っていただくとともにご指導くださった後藤先生をはじめとする先生方、そして授業との両立などに心が折れかけていた私を支えてくれた友人、家族をはじめとする周囲の方々のおかげです。この場を借りて心から深く御礼申し上げます。

この4月からは大学院に進学し、後藤先生のもとで有機養液栽培に関する研究を継続しています。この資格取得で学んだ諦めないことや努力し続けること、そして支えて下さっている多くの方への感謝を忘れず日々精進してまいります。この度はほんとうにありがとうございました。

農学部同窓会長賞

大学院 先進健康科学研究科 健康機能分子科学コース

西 村 知 花

この度は、農学部同窓会長賞を受賞させていただき、たいへん光栄に存じます。私の修士論文の研究は、佐賀県産農作物の廃棄部位からポリフェノールを抽出、

脂肪酸を付与することで新規の分子を合成し、その新規分子を化粧品の乳化剤として利用するという検討まで行ったものです。この研究は地域資源の有効活用と、普段廃棄物として処分しているものを利用することから、SDGsにも繋がっています。また、合成した新規分子はポリフェノールが持つ抗酸化作用に加え、新



たに付与した乳化機能を併せ持つハイブリッドなものです。加えて近年は天然由来の化粧品素材が注目されており、今回の研究は化粧品業界の需要にも応えたものになっています。

具体的には、クワイモの葉、ドクダミの葉と茎、柑橘類（今回は主にさがんルビーと甘夏）の白いスジの部分（アルベド）の3種類の廃棄物について検討し、最終的に柑橘類のアルベドを選択しました。その後、新規分子の合成や分析の条件検討を行い、アルベドから抽出したポリフェノールを用いて脂肪酸化した分子を合成し、その分子を乳化剤として配合したハンドクリームの作成まで行うことができました。今回の研究で最も苦勞した部分は素材の選定でした。最初はクワイモとドクダミをメインに研究を行っていました。しかし、葉緑素の除去が課題でした。そこで、第三の素材として柑橘類のアルベドに着目し、研究を進めた結果、

葉緑素の問題をクリアでき、純度良くポリフェノールを得ることができました。

これらの研究を踏まえて、北九州で開催された化学関連支部合同九州大会の化学工学部門において、第59回と第60回の2年連続で優秀ポスター賞を受賞しました。この連続受賞は日々、堅実に研究を行なった結果の賜物だと考えています。

私は令和6(2024)年4月から化学系の企業に研究職として就職しております。これまでの研究で得られた知識や経験を仕事でも活かしていきたいと思っています。

最後になりますが、熱心なご指導を賜った川口真一先生、共に研究を行ってきた仲間たち、そして温かいご支援をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

若手OB・OGからのメッセージ

研究職へ就職した体験談と後輩へのアドバイス

農研機構東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 野菜新作型グループ

川邑 菜々美 (H31卒 応生・植病)

はじめに

私は平成31(2019)年に応用生物科学科(植物病制御学研究室(草場基章先生))を卒業し、その後、奈良先端科学技術大学院大学(以下、NAIST)での修士課程を修了しました。現在は農研機構東北農業研究センターの研究員として、タマネギの病害防除に関する仕事に携わらせて頂いています。研究テーマはオムギの抗菌活性に着目したタマネギ細菌病害制御技術を見出し、減農薬でタマネギを栽培する技術の開発です。

今回は学生の皆様へ将来設計のアドバイスをお願いしますとのことですので、佐賀大学から現職までの経緯を振り返りながら主に研究職を目指す方に向けて綴ることにします。

現職へのきっかけ

学部生時代は「草場先生の授業の分かりやすさ」と「自分が取り組んだことが誰かの役に立つこと」に魅力を感じ、植物病制御学研究室を希望しました。研究室では当時、佐賀県や兵庫県で大発生して問題となっていたタマネギべと病に関する研究活動に取り組みました。その中で、佐賀県農業試験センターや九州沖縄農業研究センターと佐賀大学が参画しているタマネギべと病の防除に関するプロジェクトに参加させて頂きました。そのプロジェクトでは各センターのみなさまにお世話になり、さまざまな視点で研究される方々に出会いました。現場の誰が何に困っていて、その問題を解決するにはどのような防除法が必要か検討するところから、



農研機構東北農業研究センターでの仕事風景。タマネギを切断して内部の腐敗を調査しています。



佐賀大農学部時代の実験の一コマ。研究室のメンバー総出で病原菌の胞子があるタマネギの葉を集めて並べているところ(左)。その葉から抽出した胞子が休眠状態から目覚めぬか、タマネギと一緒に埋めたり(右上)、温度条件を変えて土壌の上に置いたりして試していました(右下)。

防除法を検討するために必要な病原菌の基礎的な情報を収集する研究まで、多岐にわたって触れることができました。困りごとを解決していく研究職に興味を湧いたのはこの経験からです。

また、上記のような研究機関で働く自分を想像した時、当時の自分では何も解決できないと感じました。さらに、べと病の研究に関わる中で、なぜ、べと病菌はタマネギが存在する時だけ休眠状態から目覚め活動を開始することができるのか、何をもってタマネギ(宿主)を認識しているのか、がとても気になるようになりました。その研究のためには、目に見えない現象を探る分子生物学的手法を活用する必要があると考えようになりました。

大学院進学から現職まで

そこで、自分の興味がある研究内容で技術が習得できるとともに、進学費用と生活費が一番の問題でしたので、その点もクリアできる大学を探し、病原菌と共生菌の違いについて分子生物的手法も用いて研究している NAIST に進学しました。費用面で佐賀大学での修士課程進学が難しい人も、大学院大学を志望するという手もありますので探してみてください。大学院のみを設置している大学には、総合研究大学院大学（総研大）や沖縄科学技術大学院大学（OIST）などもあり、生活支援制度などが充実しています。私の場合は、研究内容の他には、①農研機構への就職実績がある、②奨学金返済の免除の採択率が高い、③学生の8割が寮に入居、④投稿論文のレベルの高さ、⑤大都市へのアクセスの良さ（就活に便利）が NAIST 進学の決め手になりました。

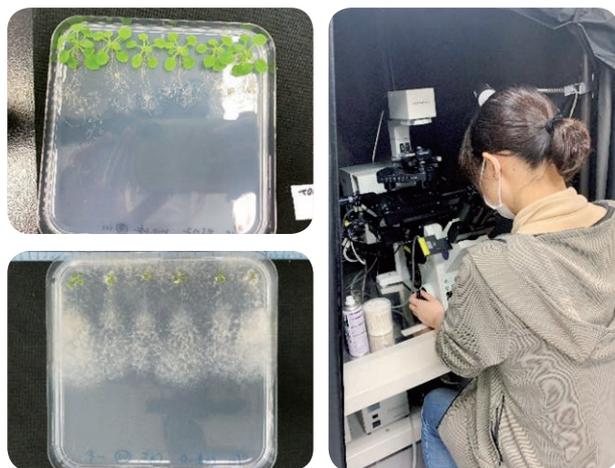
NAIST では、植物を病原菌から保護する共生菌の植物保護メカニズムについての研究を行いました。共生菌は病原菌が存在する時、単独の時とは異なる遺伝子発現をしていたことから、その遺伝子の欠損変異株を作成して、植物保護に必要な遺伝子を探す研究過程を経験しました。修士では、誰かの役に立つ研究よりも、自分の興味の追及と謎に迫る高揚感を味わえる研究で、楽しく、充実した日々を過ごしました。そこで、就活では「自分が楽しんでやったことが誰かの役に立つような仕事」を軸に取り組みました。

研究職については県職員への応募についても悩みました。しかし、県では研究機関以外への異動があることと応用研究が主であることが気になりました。このため、研究職のみの採用枠があり、基礎研究もできる可能性がある農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）に応募しました。農研機構の採用試験は分野別に分かれています。私は農業科学でしたので、ES 提出後に教養・適性試験（SCOA）、専門筆記試験（農業の散布量計算や戻し交配の計算、一般教養など）と一次面接があり、その後最終面接でした。筆記試験は公務員試験（農学・農業）の過去問を繰り返し解き、覚えていないところを授業の資料で復習しておくと思えます。あとは、農研機構の HP で中長期目標を確認するとともに農水省の農業白書を読んで、繰り返し出てくるワードを ES 作成や面接の対策に役立てると良いと思えます。

九州の外に進学・就職したい人へ

九州の外に出て進学・就活するのは準備がたいへん重要です。まずはお金です。旅費が想像以上にかかります。貯金を多めに用意しておきましょう。資金が心許ないと、面接を辞退することになります。

次に、家族や周囲の理解です。精神的に弱っているところに、家族等に度々口出しをされて悩むこともあるかと思いますが、極力自分で決めた方が後悔せずに済みます。できるだけ事前に具体的な話をしておく



NAIST（院生）時代の実験の様子。植物に菌を感染させて（左上下）、根の様子を蛍光顕微鏡で調べているところです（右）。植物の根や菌が光る遺伝子を導入して詳細な感染の様子を確認します。

受け入れて貰い易く、協力して貰えます。私は進学でしたが資金計画と研究者になりたいこと、なぜ NAIST でなければならないかを両親に説明しました。両親は不安そうでしたが、計画が順調に進んだこともあって快く送り出してくれました。しかし、家族の理解が得られず、押し切って引っ越しせざるを得ない人もいます。この場合、孤立無援になりますので相当な覚悟と入念な計画・準備が必要です。

夢の実現は社会人生活を経ての再チャレンジでも可能ですので、今回無理せずとも改めて機を伺うのも手です。一度きりの人生ですので、腐らず色々試してみてください。

おわりに

研究職に限りませんが、体力、コミュニケーション能力、趣味は学生時代に身に付けておくの良いと思えます。まず、体力があれば、人より多くの時間を自分のことに使えてチャンスを掴みやすくなります。さらに、疲れにくいのでミスが減り、気持ちに余裕が生まれます。次に、コミュニケーション能力（人と気持ちよく仕事ができる能力）があれば、周りの人に可愛がって貰えます。その方が心理的な安全を確保できる上、学べる事が多くなります。最後に、趣味があれば自身の心を癒すと同時に、職場内外の交友関係が広がり、様々な情報を得ることが出来ます。

よって、学生時代には勉強はもちろんですが、さまざまな人達とたくさん遊んで、体力とコミュニケーション能力を身に付けながら、趣味を謳歌していただければと、切に願うところです。皆さんのこれからの頑張りを期待していますし、私自身もより一層向上していきけるように日々精進していきます。

学会に入って、人に伝える力を磨こう！

佐賀県上場営農センター畜産・果樹（病害虫）研究担当

藤田 将平（H29 卒 応生・システム生態，H31 院修了）

私は平成 31(2019) 年に佐賀大学大学院農学研究科を修了後、佐賀県庁に入庁しました。1 か月後の 5 月に元号が平成から令和に変わり、時代の節目に社会に飛び

出したこととなります。

最初の勤務先は唐津市にある東松浦農業振興センターで、果樹の普及員を 3 年半務めました。その後、

上場（うわば）営農センターに異動しました。センターでは現在、野菜と果樹の病害虫防除の研究に携わっています。タマネギのべと病、黒かび病、ネギアザミウマ、ダイコンのキスジノミハムシ、カンキツのミカンハダニなどなど、手を付けている試験課題は多岐にわたっています。一般的には、「野菜の病害担当」や、「果樹の虫害担当」など、一つの分野で病害虫のどちらかに従事することが多く、私のように一人の研究員が、実質4通りも担当することは珍しいことだと思います。多品目にわたる栽培管理や試験の実施は決して楽なものではありません。ましてや薬剤の散布時期や収穫時期など天候を見ながら適切な段取りを組むことは、経験の少ない私にとってはとても難しいです。しかし、一つの職場で、同時にこれほど多くのことを学べる機会はそうそうないと思っています。病害と虫害、それら両方に知見があるということは、それだけで自分の強みになります。現在は、上司や周りの職員のみなさんの助けを借りながら、試験研究に励んでいます。でも、ゆくゆくは自分自身の力で研究を推し進めることができ、佐賀県農業に大いに貢献できるような研究員を目指しています。

私は学生の時、徳田先生の下で害虫の天敵の生態の研究を行っていました。具体的には、コナカイガラ



昆虫採集に明け暮れていた私。亜熱帯の森を分け入っては、目当ての蟲（むし）を探し求めていた（平成30（2018）年10月18日、沖縄県八重山諸島の西表島で）

シを捕食するフジコナタマバエの生活史の解明です。生活史を解明することで、天敵資源として利用可能かどうかを評価することを目的としていました。この研究成果は、九州病害虫研究会や日本蜘蛛（くも）学会などの学会で発表し、題材のユニークさから注目を集めることができました。佐賀大学農学部在籍したおかげで、この研究以外にも、昆虫が体内に持つ植物ホルモンの研究や虫こぶを作るタマバエの研究など、多くのことに関わることができました。学生の時代に培った研究に対するノウハウは、今の業務に活かしていると実感しています。

ここで、院生のみなさんに提案があります。それは、「ぜひとも学会に入ってください！」ということです。そして、そこで自分の研究を発表してください。発表することはたいへんなことのように思われるかもしれませんが、決して難しいことではありません。人前で発表することで、「人に伝える力」が格段に伸びます。この力は、研究職に限らず、多くの職業で生きてきます。会社のプレゼン、広告の作成、仕事の交渉など、具体例をあげたらきりがありません。この力を磨く場として、学会ほど適した場所はないと考えています。そして学会にはその分野の専門家が多く在籍しています。もし自分自身がその学会と関わる分野に就職したとき、その学会で培った専門家との繋がりは、必ず強い武器になります。

繰り返しになりますが、学会に入りましょう。そして自分の研究を臆することなく専門家の前で発表しましょう。発表するための苦勞の数は途方もないかもしれませんが、無駄になる苦勞は一つもないと私は考えています。ともに高みを目指して頑張りましょう！

会員のお場

佐賀大学農学部卒業生等の植物病理学分野における活躍状況と社会貢献について

賛助会員 佐古 宣道（佐賀大学名誉教授）

佐賀大学農学部の卒業生が多種多様な分野において大いに活躍しておりますことは述べるまでもないことです。佐古は昭和46(1971)年に農学科植物病理学教室の助教授として着任し、平成13(2001)年まで勤務しましたので、本稿では植物病理学分野の教官を含め卒業生の学術関係の実績と社会貢献を取りまとめてみました。皆さんが多大の成果を成し遂げていることは、驚嘆すべきすばらしい事だと自負しております。今後とも、卒業生の皆さんの益々の活躍ならびに社会貢献を大いに期待しています。



1. 博士号取得者

	氏名（卒業年次）	博士論文タイトル（授与大学、年次）
1	田中 欽二（S39卒）	黒かび病菌（ <i>Aspergillusniger</i> van Tieghem）によるタマネギ鱗茎の腐敗に関する研究（九州大学、1990）
2	森田 昭（S42卒）	ピワガんしゅ病病原細菌の類別とピワ品種の抵抗性に関する研究（九州大学、1987）
3	島田 達生（S42卒）	Scanning electron microscopic study on the saccusvasculosus of the rainbow trout（久留米大学；医学、1976）
4	加来 久敏（S45卒・S47修士修了）	イネ品種の白葉枯病に対する抵抗反応に関する研究（東京大学、1988）
5	田代 暢哉（S54卒）	ジャガイモそうか病に関する <i>Streptomyces</i> 属菌の類別と生態並びに制御技術の開発に関する研究（九州大学、1999）
6	松尾 和敏（S54卒・S56修士修了）	暖地ハウスメロンにおけるえそ斑点病の発生生態学的研究（鹿児島連大、2001）
7	牧角 啓一（S55卒・S57修士修了）	細胞培養技術を用いたインフルエンザワクチンの研究（熊本大学；理学、2009）

	氏名(卒業年次)	博士論文タイトル(授与大学, 年次)
8	吉田 政博 (S55卒・S57修士修了)	メロンがんしゅ病に関する研究(九州大学, 1995)
9	宮崎 秀雄 (S62卒)	分光学的手法による玉緑茶の特徴解析および品質評価技術に関する研究(九州大学, 2011)
10	星野 滋 (S63卒)	イネシנגレセンチュウの個体群動態と防除に関する研究(東京大学, 2018)
11	吉岡 哲也 (H3卒)	チャの減農薬栽培に関する研究-八女チャブランド力の向上を目指して-(九州大学, 2012)
12	Susanto Somowiyarjo (S61修士修了・H2鹿児島連大退学) (インドネシア共和国)	Serological studies on three potyviruses of cucurbits (東京農業大学, 1990)
13	小川 哲治 (H4卒・H6修士修了)	本邦のジャガイモYウイルスの集団遺伝構造と弱毒ウイルスに関する研究(鹿児島連大, 2013)
14	福田 伸二 (H7卒・H9修士修了)	ビワの分子マーカーの開発と早期選抜に関する遺伝・育種学的研究(鹿児島連大, 2009)
15	Shirin Farzadfar (H19博士修了) (イラン・イスラム共和国)	Biological and molecular characterization of Iranian isolates of cauliflower mosaic virus and their phylogenetic status (テヘラン大学, 2007)
16	AliReza Golnaraghi (H20博士修了) (イラン・イスラム共和国)	Biological, serological and molecular characteristics of a tospovirus isolated from potato and its detection through modern techniques (イスラミックアザッド大学, 2008)
17	川久保修佑 (R2卒・R4修士修了, R6博士修了)	系統樹駆動型研究アプローチの確立による植物ウイルス進化機構の解明(北海道大学, 2024)

2. 鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程修了者

	氏名(卒業年次)	博士論文タイトル(年次)
1	Siri Muslimah Widyastuti(H元修士修了・H4博士修了) (インドネシア共和国)	Characteristic and specificity of phytoalexins from three plant species in the family of Rosaceae (1992)
2	中島 裕之 (H5博士修了)	カブモザイクウイルス伝搬性を制御するウイルスゲノムの解析 (1993)
3	権 純培 (H6博士修了) (大韓民国)	Etiological studies of tobacco mosaic virus rakkyo strain (1994)
4	Sumitra Kantrong (H4修士修了・H8博士修了) (タイ王国)	Serological studies on aphid transmissible and non-transmissible strains of turnip mosaic virus (1995)
5	陳 劍波 (H9博士修了) (中華人民共和国)	Studies on the genome organization and pathogenicity of the rakkyo strain of tobacco mosaic virus(1997)
6	本村 知樹 (H2卒・H4修士修了・H10博士修了)	トウモロコシ白絹病 (<i>Sclerotium rolfsii</i> Sacc.) の発生とその病原菌核の水面浮上性に関する研究 (1998)
7	Azoy Kumar Kundu (H9修士修了・H12博士修了) (バングラデシュ人民共和国)	Analyses of epitopes on potyviral protein using monoclonal antibodies (2000)
8	富村 健太 (H8卒・H10修士修了・H17博士修了)	東西ユーラシア産カブモザイクウイルスの集団遺伝構造に関する研究 (2005)
9	譚 鐘揚 (H12修士修了・H17博士修了) (中華人民共和国)	A study on evolutionary basis of host-specific adaptation of turnip mosaic virus (2005)
10	富高 保弘 (H15修士修了, H18博士修了)	東アジアにおけるカブモザイクウイルスの系統地理学的・集団遺伝学的研究 (2007)
11	Huy Duc Nguyen (H21修士修了, H25博士修了) (ベトナム社会主義共和国)	Studies on the spatial and temporal evolution of turnip mosaic virus (2013)
12	八坂 亮祐 (H23卒・H25修士修了・H28博士修了)	アブラナ科ウイルスの時間尺度と拡散経路に関する研究 (2016)
13	Wiwit Probowati (R6 博士修了) (インドネシア共和国)	A study on genomic insights into the dynamics of Amaryllidaceae family and their viruses collected from all over Japan (2024)

3. 学会賞等

日本植物病理学会賞

	氏名(卒業年次)	授賞課題(年次)
1	水上 武幸	稲白葉枯病菌に関する生態学的研究 (1963)
2	野中 福次	植物病害抵抗性の機作, 特にファイトアレキシンに関する研究 (1981)
3	八重樫 博	いもち病菌の完全世代に関する研究 (1983)
4	佐古 宣道	ポティウイルスのアブラムシ非永続伝搬機構の解明とその血清学的研究 (1994)
5	大島 一里	ポティウイルスの分子進化的研究 (2013)
6	森田 昭 (S42卒)	ビワがんしゅ病の病原細菌, 発生生態および防除法に関する研究 (2001)
7	加来 久敏 (S45卒・S47修士修了)	植物病原細菌の遺伝的多様性・ゲノム解析及び感染機構に関する研究 (2003)
8	田代 暢哉 (S54卒)	EBC の概念に基づいた果樹病害防除技術の改善に関する研究 (2015)

日本植物病理学会学術奨励賞

	氏名(卒業年次)	授賞課題(年次)
1	大島 一里	植物ウイルスのモノクローナル抗体に関する研究 (1992)
2	加来 久敏 (S45卒・S47修士修了)	イネ白葉枯病に対するイネ品種の抵抗反応に関する研究 (1980)
3	田代 暢哉 (S54卒)	ジャガイモそうか病に関する研究 (1989)
4	富高 保弘 (H15修士修了, H18博士修了)	トマト黄化えそウイルスとアザミウマの相互作用に関する研究 (2019)

日本植物病理学会論文賞

氏名(卒業年次)	授賞論文名, 掲載誌(年次)
1 加来 久敏 (S45卒・S47修士修了)	Red stripe of rice is caused by a bacterium <i>Microbacterium</i> sp. Journal of General Plant Pathology 66:149-152(2000)

日本植物病理学会学生優秀発表賞

氏名(卒業年次)	発表課題(年次)
1 里本 裕規 (H23卒・H25修士修了)	単一圃場の罹病ダイコンから10年間以上にわたり採集したカブモザイクウイルスの進化速度の評価(2013)
2 八坂 亮祐 (H23卒・H25修士修了・H28博士修了)	カブモザイクウイルスの南アジアから東アジアへと続く拡散経路とその時期について(2016)
3 川久保修佑 (R2卒・R4修士修了)	リーキ黄色条斑ウイルスとネギ属植物の共進化:リーキからニンニクへの宿主適応(2023)

日本植物病理学会九州部会地域貢献賞

氏名(卒業年次)	授賞課題(年次)
1 松崎 正文 (S47卒・S48修士中退)	新発生野菜病害の病原および生態の解明とそれらの知見に基づく防除技術の開発並びに普及(2015)
2 松尾 和敏 (S54卒・S56修士修了)	暖地における特産野菜類病害の生態解明と防除技術確立(2017)

日本植物病理学会以外での受賞

氏名(卒業年次)	授賞課題(年次)
1 大島 一里	佐賀県科学技術奨励賞 研究開発分野(2004)
2 島田 達生 (S42卒)	医学生物学電子顕微鏡技術学会功労賞(2004)
3 田代 暢哉 (S54卒)	佐賀県知事表彰 ジャガイモそうか病対策の構築(1991)
4 田代 暢哉 (S54卒)	農林水産技術会議農業技術功労者表彰 果樹病害虫防除における薬剤散布技術の開発と普及(2016)
5 石橋 泰之 (S60卒)	佐賀県知事表彰 アスパラガス生産振興への寄与(1997)
6 宮崎 秀雄 (S62卒)	九州農業食料工学会支部賞 玉緑茶の加工・品質評価技術の開発と緑茶生産に対する貢献(2011)
7 宮崎 秀雄 (S62卒)	日本茶業学会奨励賞 分光学的手法による玉緑茶の特徴解析ならびに釜炒り製茶機械の開発(2014)
8 吉岡 哲也 (H3卒)	日本茶業学会奨励賞 八女茶における化学農薬代替防除技術の開発(2014)
9 稲田 稔 (H元卒)	全国農業関係試験研究場所長会研究功労者表彰 イチゴ主要病害の発生生態解明による効果的防除技術の確立～萎黄病,炭疽病,うどんこ病の防除技術～(2022)
10 川久保修佑 (R元卒・R3修士修了)	第70回日本ウイルス学会学術集会若手研究者優秀演題賞 Host-adaptive evolution of leek yellow stripe virus determined by viral RNA silencing suppressor activity in a host-dependent manner(2023)

4. 社会貢献

教室出身教授

氏名(卒業年次)	所属大学
1 田中 欽二 (S39卒)	佐賀大学農学部
2 島田 達生 (S42卒)	大分大学医学部
3 吉田 政博 (S55卒・S57修士修了)	東海大学農学部
4 Susanto Somowiyarjo (インドネシア共和国) (S61修士修了・H2退学)	Universitas Gadjah Mada (ガジャマダ大学農学部)
5 Siri Muslimah Widyastuti (インドネシア共和国) (H元修士修了・H4博士修了)	Universitas Gadjah Mada (ガジャマダ大学農学部)
6 中畠 裕之 (H5博士修了)	久留米工業高等専門学校

教室出身高等学校長

氏名(卒業年次)	勤務高等学校
1 今泉 正己 (S28卒)	佐賀県立佐賀農芸高等学校 (最終任地)
2 原 学 (S50卒・S52修士修了)	福岡県立福岡農業高等学校 (最終任地)等4校
3 下堀 浩二 (S51卒)	福岡県立嘉穂総合高等学校 (最終任地)等3校

その他

農業関係試験場長・センター長, 病害虫防除所長, 農林事務所長, 農業大学校長など多数輩出

教室出身農林水産省, 農研機構研究職員

氏名(卒業年次)
1 加来 久敏 (S45卒・S47修士修了)
2 富村 健太 (H8卒・H10修士修了・H17博士修了)
3 富高 保弘 (H15修士修了, H18博士修了)
4 川邑菜々美 (H31卒)

教室出身者の議会活動

氏名(卒業年次)	選挙区(活動期間)
1 味村 憲征 (S47卒)	山口県岩国市議会議員(2期, 2006～2014年)

教室関係者, 出身者の叙勲

氏名(卒業年次)	勲章の種類(年次)
1 野中 福次	勲三等旭日中綬章(2003)
2 佐古 宣道	瑞宝中綬章(2012)
3 原 学 (S50卒・S52修士修了)	瑞宝小綬章(2021)
4 味村 憲征 (S47卒)	旭日双光章(2022)

山菜の栽培法と食べ方講座 ③ウド (独活)

田中 欽二 (S39卒 農学・保護)

大きいだけで何の役にも立たない者の例えとして、「独活の大木」があります(成語大辞苑(主婦と生活社))。この語源の由来として、ウドの茎は地上に出る前の若芽の時は食用になるものの、大きくなると食することはできず、さらに高さ1.5~2mにも生長するのに幹が柔らかく弱いために建築材料にも使えないことから、役立たずな者の例えになったとされています。しかし、山菜としては超一級です。平安時代から食されていました。また、薬草としても優れた効能を有しています。季語は晩春です。



ウドは日当たりが良く、しかしやや湿った山野の谷間に好んで生える多年草です。2月上旬に株元に白い芽が出ているものを掘り取ります。そして、畑に植え付けます。そうすると、茎が伸びてきます。4月中旬頃になると20cmほどにまで伸長します。そこで、茎の根元深くを鎌で切り取ります(写真1)。刺身で食べると、草木芽吹く春の香りを存分に味わうことができます。さらに伸長した5月下旬頃の茎先端部の新芽(写真2)は天婦羅で食すとおいしいです。草丈が1.5mほどになった9月頃には茎頂部に緑白色の小花を咲かせます。これも天婦羅で食べることができます。

ウドには強壯および解熱的作用があり、腹痛、神経痛、めまい、リウマチ、痔、風邪の症状緩和に役立つとされています。乾燥した根茎5~10gをコップ2杯の水で煎じて利用します。三瀬にはたくさんのウドが自生しています。ウドを煎じて飲みたい方は12月以降に、食用として育てたい方は2月以降に、スコップを持参して三瀬の私のところまでお出かけください。ウド採取の後には、私が取り組んでいる不耕起栽培(自然農)の畑も見学していただくと嬉しいです。帰りには、三瀬温泉やまびこの湯で温まってください。



写真1 4月中旬に収穫したウド



写真2 5月中旬頃の新芽

支部だより

佐賀県庁支部

令和6(2024)年5月10日(金)に、佐賀大学農学部同窓会佐賀県庁支部では3月をもって定年を迎えられた先輩方の長年の功績に感謝するとともに今後の御活躍を祈念するため、「先輩を送る会」を開催しました。当日は退職された先輩4名と、240名を超える会員のうち特に退職する先輩にお世話になった42名が参加し、盛大に執り行われました。

会では、まず支部長の南から退職される先輩方に、これまでの公私にわたる御指導に対する感謝を申し上げます。そして、今後とも我々県庁支部の後輩に対する応援団として御活躍いただきたい旨をお願いしました。その後、出席いただいた先輩お一人お一人から挨拶をいただき、祝宴へと移りました。

祝宴では、それぞれの会員が先輩方を取り囲み、これまでの楽しかった思い出や、ともに苦労を重ねた思



い出を語り合い、笑いが会場に響き渡るなど、大いに盛り上がりを見せました。

特に今回は若い会員が数多く参加するなど、先輩方の意思を受け継ぎ、当支部の活動が今後とも活発に続き、発展していくことが期待できる素晴らしい会となりま

した。

最後に三原副支部長の万歳で幕を閉じたところまではよかったのですが、先輩方を参加者のアーチのトンネルで送り出した後に、せっかく用意していた花束を贈呈していなかったことを思い出しました。帰路に就いた先輩方を慌てて追いかけて花束を渡したことは当支部のおっちょこちょいな役員らしく、それもまた先

輩方の良い思い出となったことでしょう。

会員の皆様をはじめ、日頃からお世話になっている大学や同窓会本部の関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして、当支部活動の御紹介といたします。

佐賀県庁支部長
南 隆徳 (S63卒 園芸・蔬菜)

佐賀県教職員支部

令和6(2024)年度の教職員支部会員は、県内農業系高校5校に勤務する36名に知事部局等への出向者5名を加えた41名となっています。



新型コロナの5類移行に伴い、昨年度からようやく通常総会が開催されるようになりました。令和5(2023)年12月16日(土)にホテル千代田館で開催した総会には22名が出席し、貴重な情報交換の場にもなりました。

現在、教育現場においては教職員が不足している状況にあります。このため、優秀な若手教員の人材確保が重要な課題となっています。そこで、7月8日に本年度農学部に入学者1年生約150名を対象に農業高校

令和6・7年度佐賀県教職員支部役員

支部長	松尾 信寿	S63卒 園芸・果樹
副支部長	三原 聖子	S63卒 農化・生化
副支部長	世戸 直明	H7卒 生生・農水
幹事長	立石 賢也	H4卒 応生・蔬菜

や農業教員の魅力について話をする機会をいただきました。受講した学生の中から、一人でも多く教職課程を選択してくれることを願っています。

なお、令和6・7年度の役員については表のとおりです。

佐賀県教職員支部長
松尾 信寿 (S63卒 園芸・果樹)

農業自営者の会支部

会長2年目になります。ここ数年はコロナ禍のため、会としての積極的な活動ができずにいました。しかし、令和5(2023)年8月には前回の会報33号で紹介したように、支部総会を久しぶりに開催することができました。その時はたいへん盛り上がったことから、



年に2回開催してはどうかのとても積極的な意見も出されましたが、まずは年1回の総会を継続していきたいと思っています。より一層、会員間の連絡を密にして、運営にあたりたいと考えています。会員の積極的なご参加、ご協力をお願いいたします。

農業自営者の会支部長
末次 博幸 (S54卒 農学・作物)

佐賀県支部

佐賀県支部では第17回支部総会を令和6(2024)年5月11日(土)に佐賀市の「HOTEL グランデはがくれ」において開催しました。参加会員は23名でした。

開会にあたり、服部支部長(S50卒 農土・土改)が挨拶され、同窓会活動を通じて会員相互の連携と親睦を深めることの大切さを改めて力説されました。また、来賓として農学部同窓会の森田会長(S52卒 農学・農経)が挨拶され、農学部同窓会の活動状況や全学同窓会の新たな動きなどについて報告されました。

役員改選では、新支部長に式町秀明氏(S54卒 農学・畜産)、副支部長に熊谷正司氏(S53卒 農土・土改)、幹事長に安西 隆氏(S55卒 園芸・果樹)、幹事に百武啓文氏(S59卒 農学・熱作)、吉松修司氏(S58卒 農土・農構)、溝口宜彦氏(S56卒 農学・作物)、監事に前支部長の服部二郎氏(S50卒 農土・土改)、そして、顧問に高木 胖先生(S36卒 農学・育種)、田中欽二先生(S39卒 農学・保護)、福島末行氏(S50

卒 園芸・果樹)が選出されました。

今年度の新入会員は、田代浩幸氏(S61卒 農学・病理)、松尾 定氏(S61卒 農学・熱作)、寺崎信行氏(S61



卒 農士・土改), 藤 邦広氏 (S61 卒 農士・土改) の4名で, 会員数は122名になりました。

懇親会では元気な90歳超の先輩も出席され, 気持ちは学生時代にタイムスリップしたかのように昔話などに話が弾み, また, お酒も酌み交わしながら楽しいひとときを過ごすことができました。懇親会の終わりに恒例により, 前全学同窓会長の水田和彦氏 (S51 卒

農士・機械)の「巻頭言」のもと, 学生歌「楠の葉の」を参加者全員で熱唱して盛り上がり, 気持ちも若返ったようでした。

次回も多くの会員の方のご参加をお待ちしています。

佐賀県支部前幹事長
溝口 善紀 (S53卒 農学・病理)

神埼支部

神埼支部では, 令和5年度支部総会を令和6(2024)年4月27日(土)に上峰町の吉野ヶ里温泉ホテルにおいて開催しました。長引いたコロナ禍のため5年ぶりの開催となった総会です。来賓として鐘ヶ江農学部同窓会副会長(現会長, S56 卒 農化・生化)にご出席いただき, 13名での開催となりました。

会は白武義治副支部長 (S51 卒 農学・農経) の司会・進行で進められました。来賓あいさつでは, 鐘ヶ江副会長から全学同窓会や農学部同窓会の動きなどの報告をいただきました。また, 納富敏明支部長 (S56 卒 農化・食管) が支部活動報告や新役員(表)の紹介を行いました。役員には理事として現役の県職員である稲田 稔さん (H元卒 農学・病理) に加わっていただき, 現役世代の参加を促す取組をしたい旨の報告がありました。

議事終了後の交流会では各人が近況報告を行いました。会員の皆さんの前向きな生き様を垣間見ることができ, 和気あいあいの雰囲気の中で有意義な時間を過ごすことができました。最後は田中欽二先生 (S39 卒 農学・保護) の締め音頭で, 次回も元気な姿での出席を祈念して, 会を閉じました。

今回は世代間の交流を期待して, 若い会員の方の参加もぜひお待ちしております。

神埼支部事務局長
松尾 孝則 (S52卒 園芸・病理)

神埼支部役員 令和5(2023)年4月1日～

役員名	氏名	卒業年次
支部長	納富 敏明	S56卒 農化・食管
副支部長	白武 義治	S51卒 農学・農経
事務局長	松尾 孝則	S52卒 園芸・病理
会計	西村 隆嗣	S03卒 農学・植ウ
理事	花田 健児	S47卒 農学・病理
理事	高尾 勝弘	S51卒 園芸・園工
理事	稲田 稔	H元卒 農学・病理
顧問	金丸 安隆	S43卒 農学・畜産



同窓会からのお知らせ

農学部卒業生の皆様へ 会費納入のお願い

卒業生の皆様と同窓会事務局とのつながりを変わることなく保っていくために「会費納入」をお願いします。農学部同窓会の運営経費は, 会員の皆様から納入いただいた会費で賄われております。同窓会の運営が母校や後輩学生への支援につながっていることにも想到いただき, 重ねてお力添えをお願いいたします。

- 〈会費〉
- (1) 1年会費は2,000円(毎年納入していただくものです)
 - (2) 3年会費は6,000円(3か年分まとめて納入していただくものです)
 - (3) 70歳未満の方の終身会費は30,000円
 - (4) 70歳以上の方の終身会費は15,000円
- 会費は納入いただいた時点以降の取り扱いであり, 納入以前の未納については問いません。

- 〈手続き〉 会費の納入方法は, ゆうちょ銀行振替口座への振り込みとなっています。同窓会事務局 (TEL 0952-23-1253) まで連絡をいただければ, 払込取扱票をお送りします。

協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、長引いたコロナ禍で経済的にも厳しい状況の中、協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げますとともに、協賛各社の益々の御発展をお祈り申し上げます。

JAグループ佐賀 消費拡大運動実施中!

食べよう! **飲**もう! **飾**ろう!



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ佐賀 JA佐賀中央会/佐賀市栄町3番32号 TEL.0952-25-5115 JAグループ佐賀 検索



Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>



青果をとおして 健やかな暮らしを支えていく



福岡市中央卸売市場



福岡大同青果株式会社

代表取締役社長 丸小野 光 正 (S 52卒)

常勤監査役 草 場 昭 夫 (S 57卒)

〒813-0019 福岡市東区みなと香椎3丁目1番1-204号 TEL.(092)235-8950(代表) <https://fdydo.co.jp>

藤井重隆(課長) (H 8卒)

村井裕樹(係長) (H 8卒)

中村春華(係長) (H 28卒)
(旧姓 石志)

上野純弥(係長) (H 28卒) (院 H 30卒)

西田雄輝(係長) (R 2卒) (院 R 4卒)

樽水雄揮(R5卒)

伊藤千夏 (R6卒)

*Aiming for evidence-making that is appreciated by Japanese farmers
and trusted by researchers around the world*



一般社団法人

プラントヘルスケア研究所

Think globally, start immediately, and act locally for plant healthcare

代表理事 田代暢哉 (S54 卒 農学・病理)

840-0051 佐賀市田代 1-2-12

Mail tashirongreen12@gmail.com